

# 明日 への 話題

慌てない、続ける、ゴールを忘れない…



一般社団法人投資信託協会  
会長

まつたに ひろし  
松谷 博司

まず初めに、新型コロナウイルス感染の広がりにより、お亡くなりになられた方々には衷心よりお悔やみ申し上げ、また難に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

この難事により消費縮小やサプライチェーンの断絶等による、実体経済への悪影響が大きく懸念される。また比較的長期間の経済低迷による市況悪化も予断を許さない状況となっており、世界の資本市場・金融市場には大きな動揺が生じている。(注：3月中旬執筆時点)

このようなときに「投資する」という行為は、とても躊躇してしまうものである。それでもなお、資本市場に参加する、すなわち資本市場に資金を投入するという行為は、将来の経済成長に不可欠であるし、「投資をした人」が結果的に成長の果実という形で報われるということは歴史が物語るところだ。

ここ数百年の歴史の中でも世界は大きな難事を経験してきた。14世紀欧州ではペストが大流行し人口の約半数が亡くなり、社会は激変し、封建制が崩壊し、資本主義が生まれる契機となった。また、18世紀の南海泡沫バブルも、1873年や1929年の大恐慌も、2008年のリーマンショックも、その時代の人々は産業構造の変化や技術革新という形で、その経済危機を乗り越えてきた。結果として、このような難事に際してこそ、資本市場に参加した者は、その後の成長の果実を手にしてきた。

我が国は「貯蓄から資産形成へ」と官民挙げ、長年取り組んできた。未だ道半ばであるが、近年漸く一般生活者の間に資産形成には投資が必要で、その基本原則は「長期・分散・積立」であるということが定着し始めてきたところで、この難事に遭遇した。

難事に際し、一般生活者を資本市場に参加を促すのは、とても大変なことである。しかし、このようなときにも一般生活者だからこそ使える強い武器がある。それは「長期投資」であり、「積立」である。長期の投資こそが、経済変動や社会変革を超えて、成長の果実を手にする唯一の方法である。

401kの普及が大きい米国では、大手メディアの論調を見ても、「長期投資の視点をもう一度見返せ」「狼狽売りをするな」という強いメッセージが頻繁に出されている。かのウォーレン・バフェットもCNBCに出演し、投資態度を変えるべきではないと訴えている。

一般生活者の資金を資本市場に導くことは、資産運用業の本質である。特に「長期投資」の大切さを今こそ訴えるときである。それが資産運用業に携わる者の大きな使命だ。